消　防　団　編

1. 福山市消防団

2026 年（令和 8 年）4 月 1 日現在

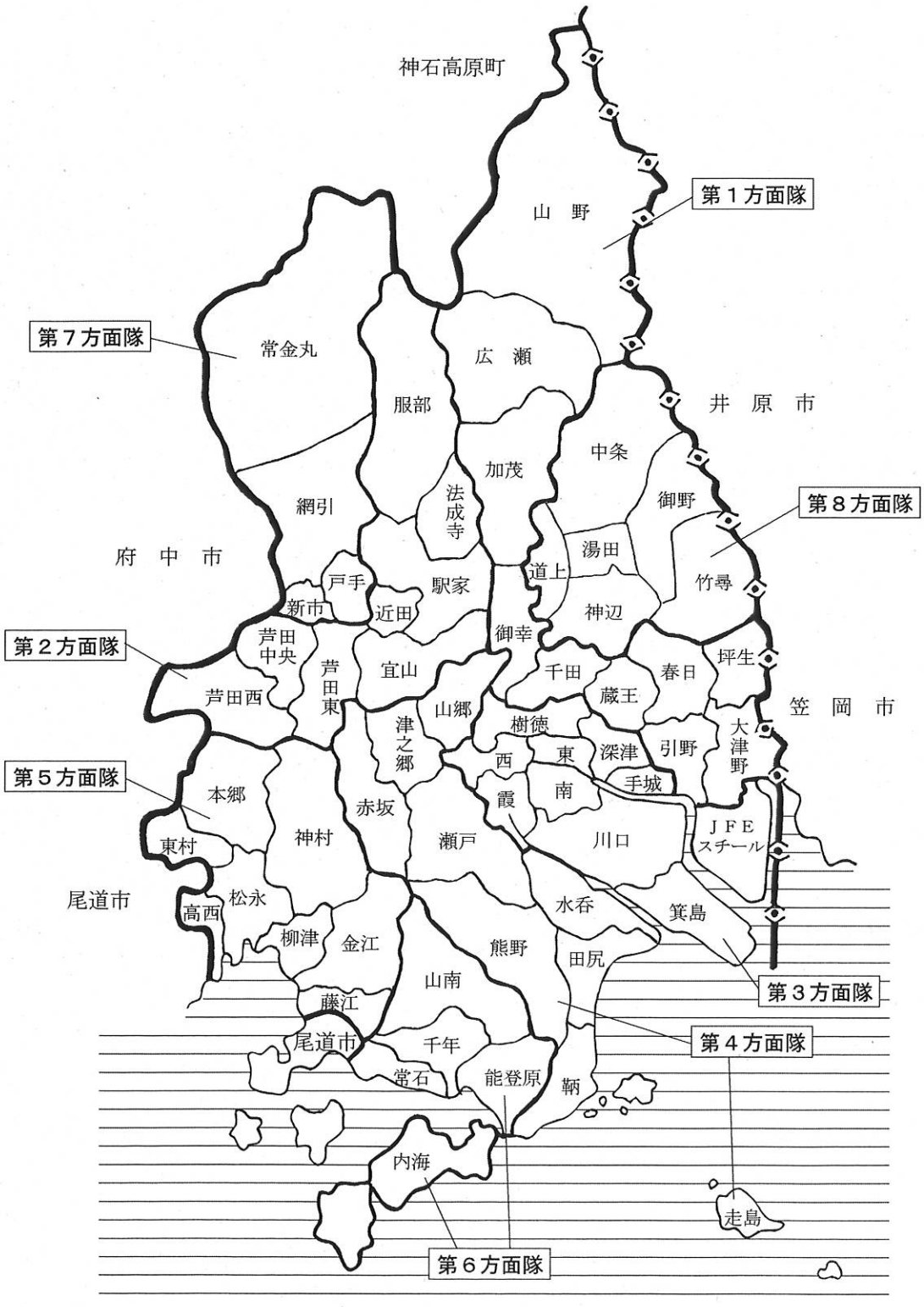
人　口	449,999　人
世　帯	218,291　世帯
面　積	517.72　　k ㎡



福山市章

　福山城跡のある城山は、もと蝙蝠（こうもり）山と言われ、蝠は福に通ずることから福山と言われました。その蝙蝠と山をかたどったものです。

(1) 消防団の分団配置図


神石高原町
山野
第１方面隊
第７方面隊
常金丸
広瀬
服部
井原市
中条
加茂
法成寺
網引
御野
第８方面隊
府中市
湯田
道上
竹尋
戸手
駅家
新市
近田
神辺
第２方面隊
芦田中央
御幸
芦田西
芦田東
宜山
千田
春日
坪生
蔵王
笠岡市
山郷
樹徳
津之郷
深津
引野
大津野
第５方面隊
西
東
手城
本郷
南
霞
赤坂
ＪＦＥスチール
東村
神村
瀬戸
川口
尾道市
松永
水呑
高西
箕島
柳津
金江
熊野
田尻
山南
第３方面隊
藤江
尾道市
第４方面隊
千年
常石
能登原
鞆
内海
走島
第６方面隊

(2) 消防団の組織図



(3) 消防団の定員と報酬

2026年(令和8年)4月1日現在

区分＼階級	計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
定員	2,864	1	9	69	120	168	168	2,329
職務報酬	(年額)	82,500	69,000	50,500	45,500	38,000	37,000	36,500
出動報酬	1日につき8,000円以下							

(4) 消防団員退職・新任状況

2025年度(令和7年度)

退職団員数	自己都合	傷病			死亡		
		計	公務	その他	計	公務	その他
116	112	−	−	−	4	−	4
	在職年数						
	5年未満	5～10	10～15	15～20	20～25	25～30	30年以上
	27	21	16	8	18	6	20

新任団員数	18歳～20歳	21歳～25歳	26歳～30歳	31歳～35歳	36歳～40歳	41歳～45歳	46歳以上
127	14	14	13	17	11	7	51

(5) 消防団在職年数別団員数

2026年（令和8年）4月1日現在

階級 / 年数	計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
平均在職年数	15.5 (6.0)	44.0	34.1	24.7	22.9	16.3	13.6	14.7
計	2,545 (65)	1	8	68 (1)	120 (2)	168 (3)	168 (3)	2,012 (56)
5年未満	414 (39)	－	－	－	－	3 (1)	16 (1)	395 (37)
5年以上～10年未満	393 (6)	－	－	－	1	24 (1)	43	325 (5)
10年以上～15年未満	448 (11)	－	－	6	16 (2)	47	43 (2)	336 (7)
15年以上～20年未満	424 (2)	－	1	6	23	48	29	317 (2)
20年以上～25年未満	329 (7)	－	－	21 (1)	30	18 (1)	22	238 (5)
25年以上～30年未満	292	－	－	21	27	19	8	217
30年以上	245	1	7	14	23	9	7	184

※ （ ）は女性消防団員で内数

(6) 消防団年齢別団員数

2026年（令和8年）4月1日現在

階級 / 年数	計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
平均年齢	44.9 (42.8)	69.0	61.6	51.9	50.7	45.6	43.7	43.3
計	2,545 (65)	1	8	68 (1)	120 (2)	168 (3)	168 (3)	2,012 (56)
18歳以上～21歳未満	18 (5)	－	－	－	－	－	1	17 (5)
21歳以上～26歳未満	63 (5)	－	－	－	－	－		63 (5)
26歳以上～31歳未満	137 (5)	－	－	－	－	3	9 (1)	125 (4)
31歳以上～36歳未満	213 (4)	－	－	－	2	9 (1)	13 (1)	189 (2)
36歳以上～41歳未満	358 (8)	－	－	1	2	25 (1)	35	295 (7)
41歳以上～46歳未満	457 (8)	－	－	5	16	45	38	353 (8)
46歳以上～51歳未満	539 (6)	－		26	37 (1)	45	37	394 (5)
51歳以上～56歳未満	438 (11)	－	1	20	36	27 (1)	27 (1)	327 (9)
56歳以上	322 (13)	1	7	16 (1)	27 (1)	14	8	249 (11)

※ （ ）は女性消防団員で内数

(7) 消防団の団員表彰状況

2025年度（令和7年度）

区分 / 計	叙勲	消防庁長官	日本消防協会長	県知事	県消防協会長
346	5	11	44	51	235

(8) 消防団の分団別定員と実員

2026年（令和8年）4月1日現在

区分 / 分団別	定員	実員							
		計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
計	2,864	2,545	1	8	68	120	168	168	2,012
団本部	94	67	1	8	9	2	3	3	41
引野	50	33	−	−	1	2	3	3	24
蔵王	41	39	−	−	1	2	3	3	30
千田	41	40	−	−	1	2	3	3	31
御幸	51	40	−	−	1	2	3	3	31
大津野	50	48	−	−	1	2	3	3	39
春日	39	30	−	−	1	2	2	2	23
坪生	43	38	−	−	1	2	3	3	29
加茂	55	47	−	−	1	2	3	3	38
広瀬	25	22	−	−	1	2	1	1	17
山野	25	17	−	−	1	2	1	1	12
芦田東	54	54	−	−	1	2	4	4	43
芦田中央	40	38	−	−	1	2	3	3	29
芦田西	50	50	−	−	1	2	4	4	39
駅家	56	55	−	−	1	2	4	4	44
宜山	52	49	−	−	1	2	3	3	40
近田	22	22	−	−	1	2	1	1	17
服部	50	50	−	−	1	2	3	3	41
法成寺	32	32	−	−	1	2	2	2	25
東	25	20	−	−	1	2	1	1	15
西	25	24	−	−	1	2	2	2	17
南	25	22	−	−	1	2	1	1	17
霞	25	20	−	−	1	2	1	1	15
樹徳	31	26	−	−	1	2	2	2	19
川口	65	51	−	−	1	2	3	3	42
手城	27	27	−	−	1	2	1	1	22
深津	25	25	−	−	1	2	1	1	20
箕島	30	29	−	−	1	2	2	2	22
山郷	60	54	−	−	1	2	5	5	41
津之郷	30	23	−	−	1	2	2	2	16
赤坂	55	52	−	−	1	2	4	4	41

2026年（令和8年）4月1日現在

区分 / 分団別	定員	実員							
		計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
瀬戸	50	37	－	－	1	2	4	4	26
熊野	60	56	－	－	1	2	5	5	43
水呑	50	44	－	－	1	2	4	4	33
田尻	27	21	－	－	1	2	2	2	14
鞆	60	54	－	－	1	2	3	3	45
走島	50	43	－	－	1	2	3	3	34
東村	39	38	－	－	1	2	3	3	29
本郷	42	38	－	－	1	2	3	3	29
神村	72	65	－	－	1	2	6	6	50
柳津	27	27	－	－	1	2	2	2	20
金江	42	38	－	－	1	2	3	3	29
藤江	51	49	－	－	1	2	4	4	38
松永	60	60	－	－	1	2	5	5	47
高西	25	25	－	－	1	2	2	2	18
内海	45	45	－	－	1	2	3	3	36
山南	65	52	－	－	1	2	4	4	41
常石	36	26	－	－	1	2	2	2	19
千年	61	53	－	－	1	2	3	3	44
能登原	30	23	－	－	1	2	2	2	16
常金丸	85	63	－	－	1	2	4	4	52
網引	75	62	－	－	1	2	3	3	53
新市	75	73	－	－	1	2	3	3	64
戸手	50	43	－	－	1	2	2	2	36
神辺	78	74	－	－	1	2	3	3	65
御野	75	66	－	－	1	2	3	3	57
竹尋	75	73	－	－	1	2	3	3	64
湯田	61	61	－	－	1	2	2	2	54
中条	50	40	－	－	1	2	3	3	31
道上	55	52	－	－	1	2	2	2	45

(9) 消防団の分団別消防機械配置状況

2026年（令和8年）4月1日現在

区分 / 分団別	計	消防ポンプ自動車	小型動力ポンプ	積載車			その他
				小計	普通車	軽四輪車	
計	278	58	110	108	97	11	2
団本部	6	－	3	1	1	－	2
引野	5	1	2	2	2	－	－
蔵王	5	1	2	2	2	－	－
千田	5	1	2	2	2	－	－
御幸	5	1	2	2	1	1	－
大津野	5	1	2	2	2	－	－
春日	3	1	1	1	1	－	－
坪生	5	1	2	2	2	－	－
加茂	5	1	2	2	2	－	－
広瀬	2	－	1	1	1	－	－
山野	1	1	－	－	－	－	－
芦田東	7	1	3	3	3	－	－
芦田中央	5	1	2	2	2	－	－
芦田西	7	1	3	3	2	1	－
駅家	7	1	3	3	3	－	－
宜山	5	1	2	2	1	1	－
近田	1	1	－	－	－	－	－
服部	5	1	2	2	2	－	－
法成寺	3	1	1	1	1	－	－
東	1	1	－	－	－	－	－
西	3	1	1	1	1	－	－
南	1	1	－	－	－	－	－
霞	1	1	－	－	－	－	－
樹徳	3	1	1	1	1	－	－
川口	4	2	1	1	1	－	－
手城	1	1	－	－	－	－	－
深津	1	1	－	－	－	－	－
箕島	3	1	1	1	1	－	－
山郷	9	1	4	4	4	－	－
津之郷	3	1	1	1	1	－	－
赤坂	7	1	3	3	3	－	－

2026年（令和8年）4月1日現在

区分 / 分団別	計	消防ポンプ自動車	小型動力ポンプ	積載車			その他
				小計	普通車	軽四輪車	
瀬戸	7	1	3	3	2	1	－
熊野	9	1	4	4	4	－	－
水呑	7	1	3	3	2	1	－
田尻	4	－	2	2	2	－	－
鞆	5	1	2	2	2	－	－
走島	6	－	3	3	－	3	－
東村	5	1	2	2	1	1	－
本郷	5	1	2	2	2	－	－
神村	11	1	5	5	5	－	－
柳津	3	1	1	1	1	－	－
金江	5	1	2	2	1	1	－
藤江	7	1	3	3	3	－	－
松永	9	1	4	4	4	－	－
高西	3	1	1	1	1	－	－
内海	5	1	2	2	1	1	－
山南	7	1	3	3	3	－	－
常石	3	1	1	1	1	－	－
千年	5	1	2	2	2	－	－
能登原	3	1	1	1	1	－	－
常金丸	7	1	3	3	3	－	－
網引	5	1	2	2	2	－	－
新市	5	1	2	2	2	－	－
戸手	3	1	1	1	1	－	－
神辺	4	2	1	1	1	－	－
御野	5	1	2	2	2	－	－
竹尋	5	1	2	2	2	－	－
湯田	3	1	1	1	1	－	－
中条	5	1	2	2	2	－	－
道上	3	1	1	1	1	－	－

（注）　団本部、その他欄の2台は指揮車及び広報車

（10）消防団の分団別活動状況

2025年中（令和7年中）

区分 / 分団別	計		火災		風水害等		訓練その他	
	出動回数	出動人員	出動回数	出動人員	出動回数	出動人員	出動回数	出動人員
計	26,060	101,119	792	3,729	－	－	25,268	97,390
団本部	3,284	4,471	148	148	－	－	3,136	4,323
引野	275	954	14	48	－	－	261	906
蔵王	431	1,838	16	84	－	－	415	1,754
千田	565	1,469	22	93	－	－	543	1,376
御幸	402	1,728	16	116	－	－	386	1,612
大津野	417	1,958	12	101	－	－	405	1,857
春日	377	1,528	19	107	－	－	358	1,421
坪生	393	1,612	12	63	－	－	381	1,549
加茂	575	2,209	7	49	－	－	568	2,160
広瀬	246	827	2	16	－	－	244	811
山野	258	751	5	15	－	－	253	736
芦田東	685	3,118	3	25	－	－	682	3,093
芦田中央	345	1,571	3	10	－	－	342	1,561
芦田西	520	3,078	8	90	－	－	512	2,988
駅家	693	2,349	17	69	－	－	676	2,280
宜山	416	1,809	13	83	－	－	403	1,726
近田	256	839	4	11	－	－	252	828
服部	293	3,838	14	148	－	－	279	3,690
法成寺	291	1,536	8	61	－	－	283	1,475
東	255	683	4	6	－	－	251	677
西	400	1,054	10	24	－	－	390	1,030
南	295	838	8	19	－	－	287	819
霞	276	703	2	2	－	－	274	701
樹徳	379	1,041	10	19	－	－	369	1,022
川口	438	1,584	11	38	－	－	427	1,546
手城	268	781	4	13	－	－	264	768
深津	276	875	6	13	－	－	270	862
箕島	336	1,298	8	22	－	－	328	1,276
山郷	515	2,149	14	71	－	－	501	2,078
津之郷	369	1,277	6	43	－	－	363	1,234
赤坂	520	2,092	10	32	－	－	510	2,060

2025年中（令和7年中）

区分 / 分団別	計		火災		風水害等		訓練その他	
	出動回数	出動人員	出動回数	出動人員	出動回数	出動人員	出動回数	出動人員
瀬戸	502	1,520	11	41	－	－	491	1,479
熊野	565	2,120	17	154	－	－	548	1,966
水呑	485	1,897	15	73	－	－	470	1,824
田尻	283	994	13	95	－	－	270	899
鞆	364	1,296	11	71	－	－	353	1,225
走島	339	1,253	2	8	－	－	337	1,245
東村	277	1,388	6	38	－	－	271	1,350
本郷	343	1,510	2	9	－	－	341	1,501
神村	617	2,409	10	63	－	－	607	2,346
柳津	365	1,413	6	30	－	－	359	1,383
金江	326	1,373	3	9	－	－	323	1,364
藤江	406	1,741	1	3	－	－	405	1,738
松永	489	1,613	7	55	－	－	482	1,558
高西	232	833	2	12	－	－	230	821
内海	435	2,097	15	54	－	－	420	2,043
山南	310	1,532	18	68	－	－	292	1,464
常石	296	1,344	21	61	－	－	275	1,283
千年	311	1,901	23	95	－	－	288	1,806
能登原	267	721	3	6	－	－	264	715
常金丸	404	2,335	3	31	－	－	401	2,304
網引	321	2,029	5	54	－	－	316	1,975
新市	496	1,815	2	13	－	－	494	1,802
戸手	348	1,734	6	26	－	－	342	1,708
神辺	377	2,581	28	169	－	－	349	2,412
御野	387	2,052	25	163	－	－	362	1,889
竹尋	385	2,265	17	135	－	－	368	2,130
湯田	384	1,887	32	181	－	－	352	1,706
中条	322	1,763	23	181	－	－	299	1,582
道上	375	1,845	29	192	－	－	346	1,653

(11)消防団の沿革

1868年（明治元年）		竜吐水8台を酒屋8軒が備え、町内の青壮年が消防に従事する。
1889年（明治22年）	6月 1日	市制町村制により福山町になる。
	12月28日	「消防組規制」広島県令が出る。
1893年（明治26年）		英人宣教師ベツールが舶来の手押しポンプ1台を移入し、私設福山町消防組を設置する。
1894年（明治27年）	2月	勅令により消防組規制が制定され、私設消防組を町営消防組に改める。
1910年（明治43年）	5月20日	公設福山町消防組を設置、組頭以下80人とする。
1916年（大正 5年）	7月 1日	福山市制施行
	7月10日	市制施行により福山市消防組に改編し、組頭以下130人とする。（消防屯所1カ所、纏2本、梯子4基、手押しポンプ3台、運水器26個）
1919年（大正 8年）	11月13日	広島県下で最初の四輪手挽ポンプ25馬力1台を購入する。
1920年（大正 9年）	7月 1日	福山市水防組を設置、水防長以下57人とする。
1925年（大正14年）		2台目の自動車ポンプを購入する。
1927年（昭和 2年）	1月18日	福山市消防組員600人となる。
1932年（昭和 7年）	12月26日	広島県知事から金馬簾を授与される。
1933年（昭和 8年）	2月22日	防護団を設置する。
1934年（昭和 9年）	4月10日	福山市消防組を18組592人で編成する。
1939年（昭和14年）	4月 1日	消防団令公布により、消防組と防護団を解体し警防団を結成、団長以下1,044人とする。（自動車ポンプ3台、手挽ポンプ1台、腕用ポンプ1台）
1942年（昭和17年）	7月 1日	山手村・郷分村を合併、警防団は9分団1,357人となる。
1944年（昭和19年）	2月 8日	警防団員1,439人となる。
1947年（昭和22年）	8月 4日	消防団令の公布施行により福山市消防団を設置、消防団の定員を725人とする。
1952年（昭和27年）	5月 9日	福山市消防団は9分団、定員690人となる。（ポンプ自動車4台、三輪ポンプ自動車4台、手挽ポンプ4台、腕用ポンプ21台）
1954年（昭和29年）	11月 9日	広島県消防協会長から竿頭綬を授与される。
1956年（昭和31年）	9月30日	瀬戸村・熊野村・水呑町・鞆町等10町村を合併し、消防団は21分団2,789人となる。
	11月23日	広島県知事から竿頭金馬簾を授与される。
1957年（昭和32年）	3月 4日	福山市消防団条例を制定、21分団2,069人とする。
1961年（昭和36年）	2月11日	日本消防協会長から竿頭綬を授与される。
	4月 1日	消防団員退職報償金制度を実施する。
1962年（昭和37年）	1月 1日	深安町を合併、消防団を改編し定員1,833人とする。
1966年（昭和41年）	5月 1日	松永市と合併、消防団を改編し33分団2,658人とする。
		消防団員退職報償金支給条例を施行する。

1967年（昭和42年）	3月 7日	消防庁長官から竿頭綬を授与される。
	11月 9日	広島県消防協会長から表彰旗を授与される。
1971年（昭和46年）	4月 1日	消防団の総合整備を実施、定員を2,169人とする。
1973年（昭和48年）	6月 1日	消防団の総合整備を実施、定員を1,608人とする。
1974年（昭和49年）	2月20日	日本消防協会長から表彰旗を授与される。
	4月 1日	芦田町を合併、消防団を改編し36分団1,956人とする。
1975年（昭和50年）	2月 1日	駅家町・加茂町を合併、消防団を改編し50分団2,636人とする。
1976年（昭和51年）	7月15日	消防団の総合整備を実施、定員を2,130人とする。
	7月27日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）で、芦田西分団が優勝する。
1978年（昭和53年）	10月15日	第6回全国消防操法大会（小型動力ポンプの部）へ、県代表として芦田西分団が出場、日本消防協会長から竿頭綬を授与される。
1984年（昭和59年）	3月 9日	消防庁長官から表彰旗を授与される。
1985年（昭和60年）	9月12日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）で、芦田西分団が優勝する。
1986年（昭和61年 ）	10月14日	第10回全国消防操法大会に出場した芦田西分団は、小型動力ポンプの部において準優勝する。
1987年（昭和62年）	9月 8日	広島県消防ポンプ操法競技大会（消防ポンプ自動車の部）で、東分団が優勝する。
1988年（昭和63年）	3月 9日	日本消防協会長から、特別表彰「まとい」を授与される。
	10月12日	第11回全国消防操法大会（消防ポンプ自動車の部）へ、県代表として東分団が出場する。
1989年（平成元年）	4月 1日	消防団の総合整備を実施、定員を1,820人とする。
	9月14日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）で、芦田東分団が優勝する。
1990年（平成２年）	10月12日	第12回全国消防操法大会へ出場した芦田東分団は、小型動力ポンプの部において優良賞を授与される。
1993年（平成５年）	9月14日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）で、本郷分団が優勝する。
1994年（平成６年）	10月13日	第14回全国消防操法大会（小型動力ポンプの部）へ、県代表として本郷分団が出場する。
1997年（平成９年）	9月 5日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）で、芦田東分団が優勝する。
1998年（平成10年）	10月 8日	第16回全国消防操法大会（小型動力ポンプの部）へ、県代表として芦田東分団が出場する。
1999年（平成11年）	9月10日	広島県消防ポンプ操法競技大会（消防ポンプ自動車の部）で、蔵王分団が優勝する。

2000年（平成12年）	10月19日	第17回全国消防操法大会へ出場した蔵王分団は、消防ポンプ自動車の部において優良賞を授与される。
2001年（平成13年）	9月11日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）で、山野分団が準優勝する。
2003年（平成15年）	2月 3日	内海町・新市町を合併、消防団を改編し51分団2,236人とする。
	9月 9日	広島県消防ポンプ操法競技大会（消防ポンプ自動車の部）で、芦田中央分団が優勝する。
2004年（平成16年）	11月 8日	第19回全国消防操法大会へ出場した芦田中央分団は、消防ポンプ自動車の部において全国優勝する。
2005年（平成17年）	2月 1日	沼隈町を合併、消防団を55分団2,464人とする。
	9月13日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）で、蔵王分団が優勝する。
2006年（平成18年）	3月 1日	神辺町を合併、消防団を61分団2,864人とする。
	4月 1日	女性消防団員26人が入団する。
	10月19日	第20回全国消防操法大会へ出場した蔵王分団は、小型動力ポンプの部において敢闘賞を授与される。
2007年（平成19年）	2月20日	平成18年1月11日の本郷町林野火災の功労に対して、消防庁長官から褒状を授与される。
	9月11日	広島県消防ポンプ操法競技大会（消防ポンプ自動車の部）で、法成寺分団が優勝する。
2008年（平成20年）	4月 1日	福山市消防団協力事業所表示制度実施要綱を制定し、25事業所へ表示証を交付する。
	10月12日	第21回全国消防操法大会へ出場した法成寺分団は、消防ポンプ自動車の部において優良賞を授与される。
2009年（平成21年）	9月 9日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）で、芦田西分団が優勝する。
2010年（平成22年）	2月22日	団本部へ指揮車１台が寄贈される。
	11月12日	第22回全国消防操法大会へ出場した芦田西分団は、小型動力ポンプの部において準優勝する。
2011年（平成23年）	9月10日	広島県消防ポンプ操法競技大会（消防ポンプ自動車の部）で、蔵王分団が優勝する。
2012年（平成24年）	10月 7日	第23回全国消防操法大会へ出場した蔵王分団は、消防ポンプ自動車の部において準優勝する。
2013年（平成25年）	9月 7日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）で、道上分団が優勝する。
2014年（平成26年）	11月 8日	第24回全国消防操法大会へ出場した道上分団は、小型動力ポンプの部において準優勝する。

2015年（平成27年）	3月 6日	消防庁長官から竿頭綬を授与される。
	4月 1日	内海町3分団を統廃合、内海町１分団とする。 女性分団（50人）を発足し、消防団を改編し60分団2,864人とする。 福山市消防団員サポート店登録要綱を制定し、消防団員を民間でサポートする仕組みを充実させる。
	9月 5日	広島県消防ポンプ操法競技大会（消防ポンプ自動車の部）で、芦田西分団が優勝する。
2016年（平成28年）	10月14日	第25回全国消防操法大会（消防ポンプ自動車の部）へ、県代表として芦田西分団が出場する。
2017年（平成29年）	4月 1日	消防団員の就職活動を支援することを目的に、福山市学生消防団員活動認証制度実施要綱を制定する。
	9月 2日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）で、芦田東分団が優勝する。
	12月12日	団本部へ広報車１台が寄贈される。
2018年（平成30年）	10月19日	第26回全国消防操法大会へ出場した芦田東分団は、小型動力ポンプの部において優良賞を授与される。
	12月20日	平成30年7月豪雨の功労に対して、総務大臣から感謝状を授与される。
2019年（平成31年）	2月10日	平成30年7月豪雨の功労に対して、消防庁長官から表彰状を授与される。
	2月13日	平成30年7月豪雨の功労に対して、国土交通大臣から表彰状を授与される。
2019年（令和元年）	9月 1日	平成30年7月豪雨の功労に対して、内閣総理大臣から表彰状を授与される。
	9月 7日	広島県消防ポンプ操法競技大会（消防ポンプ自動車の部）で、服部分団が優勝する。
	11月13日	第24回全国女性消防操法大会へ、県代表として女性分団が出場する。
2022年（令和4年）	10月29日	第29回全国消防操法大会へ出場した服部分団は、消防ポンプ自動車の部において優良賞を授与される。
2023年（令和5年）	10月21日	第25回全国女性消防操法大会へ出場した女性分団が、優良賞を授与される。
2023年（令和5年）	11月25日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型ポンプ操法の部）で、芦田西分団が優勝する。
2024年（令和6年）	7月10日	多年にわたる消防発展等の功績に対して、消防団長が消防功労者総務大臣表彰を授与される。
2024年（令和6年）	10月12日	第30回全国消防操法大会へ出場した芦田西分団は、小型ポンプの部において優良賞を授与される。
2024年（令和6年）	11月29日	消防行政の多大なる発展等の功績に対して、消防団長が自治体消防75周

		年記念内閣総理大臣表彰を授与される。
2025年（令和7年）	11月15日	広島県消防ポンプ操法競技大会（消防ポンプ自動車の部）で、芦田東分団が優勝、服部分団が準優勝する。

2. 府中市消防団

2026年（令和8年）4月1日現在

人　口	34,105　人
世　帯	16,744　世帯
面　積	195.75　k㎡

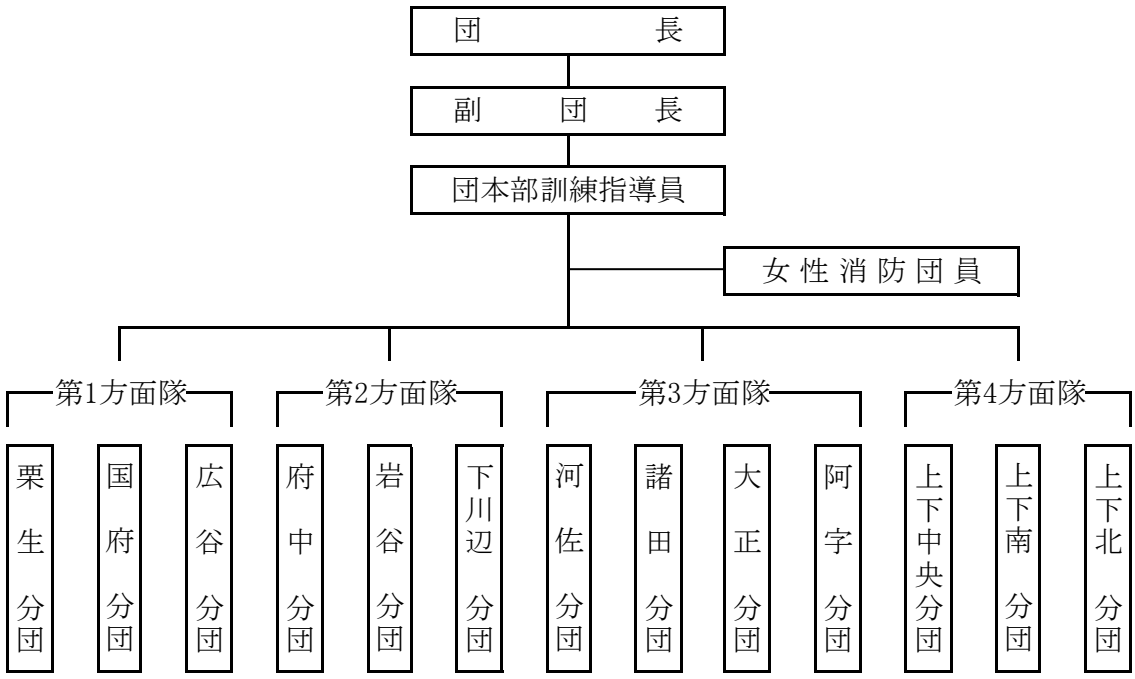


府中市章
「フ」と「中」をデフォルメし、円満のうちに大きく発展上昇の意を表しています。

(1) 消防団の分団配置図


庄原市
上下北分団
三次市
神石高原町
上下中央分団
上下南分団
第４方面隊
大正分団
世羅町
阿字分団
福山市
第３方面隊
岩谷分団
河佐分団
広谷分団
諸田分団
府中分団
国府分団
尾道市
下川辺分団
栗生分団
福山市
第２方面隊
第１方面隊

(2) 消防団の組織図



(3) 消防団の定員と報酬

2026年(令和8年)4月1日現在

区分＼階級	計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
定員	630	1	4	21	26	47	100	431
職務報酬	(年額)	82,500	69,000	50,500	45,500	38,000	37,000	d
出動報酬	日額8,000円以内							

(4) 消防団員退職・新任状況

2025年度(令和7年度)

退職団員数	自己都合	傷病			死亡		
		計	公務	その他	計	公務	その他
56	55	−	−	−	1	−	1
	在職年数						
	5年未満	5～10	10～15	15～20	20～25	25～30	30年以上
	4	4	9	8	9	5	17

新任団員数	18歳～20歳	21歳～25歳	26歳～30歳	31歳～35歳	36歳～40歳	41歳～45歳	46歳以上
3	−	2	−	−	1	−	−

(5) 消防団在職年数別団員数

2026年（令和8年）4月1日現在

階級 / 年数	計		団長	副団長	分団長	副分団長	部長		班長		団員	
平均在職年数	23.3	(9.4)	24.0	27.8	25.5	26.0	21.0		19.7		19.4	
計	567	(15)	1	4	20	26	45	(1)	98	(1)	373	(13)
5年未満	35	(3)	－	－	－	－	－		1		34	(3)
5年以上～10年未満	53	(1)	－	－	－	－	4		12		37	(1)
10年以上～15年未満	105	(11)	－	－	1	1	4	(1)	20	(1)	79	(9)
15年以上～20年未満	81	0	－	1	2	4	8		14		52	
20年以上～25年未満	95	0	1	－	4	6	17		18		49	
25年以上～30年未満	93	0	－	1	9	4	7		22		50	
30年以上	105	0	－	2	4	11	5		11		72	

※（ ）は女性消防団員で内数

(6) 消防団年齢別団員数

2026年（令和8年）4月1日現在

階級 / 年数	計		団長	副団長	分団長	副分団長	部長		班長		団員	
平均年齢	51.1		52.0	57.0	52.4	51.3	49.0		48.4		47.6	
計	567	(15)	1	4	20	26	45	(1)	98	(1)	373	(13)
18歳以上～21歳未満	－	0	－	－	－	－	－		－		－	
21歳以上～26歳未満	6	0	－	－	－	－	－		－		6	
26歳以上～31歳未満	19	(2)	－	－	－	－	－		1		18	(2)
31歳以上～36歳未満	31	0	－	－	－	－	－		3		28	
36歳以上～41歳未満	45	0	－	－	－	－	1		7		37	
41歳以上～46歳未満	105	(3)	－	－	2	2	11		21		69	(3)
46歳以上～51歳未満	115	(3)	－	－	3	7	19		28		58	(3)
51歳以上～56歳未満	109	(1)	2	1	9	13	11		23		50	(1)
56歳以上	137	(6)	－	3	6	4	3	(1)	15	(1)	106	(4)

※（ ）は女性消防団員で内数

(7) 消防団の団員表彰状況

2025年度（令和7年度）

区分 / 計	叙勲	消防庁長官	日本消防協会長	県知事	県消防協会長
80	－	5	3	10	62

(8) 消防団の分団別定員と実員

2026年（令和8年）4月1日現在

区分 / 分団別	定員	実員							
		計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
計	630	567	1	4	20	26	45	99	372
本部	28	27	1	4	7	－	1	1	13
栗生	51	47	－	－	1	2	4	8	32
国府	55	50	－	－	1	2	3	6	38
広谷	49	46	－	－	1	2	4	9	30
府中	33	26	－	－	1	2	3	6	14
岩谷	48	38	－	－	1	2	2	6	27
下川辺	53	52	－	－	1	2	4	9	36
河佐	41	38	－	－	1	2	2	6	27
諸田	32	30	－	－	1	2	2	4	21
大正	37	34	－	－	1	2	3	7	21
阿宇	39	37	－	－	1	2	2	6	26
上下中央	47	45	－	－	1	2	4	8	30
上下南	58	48	－	－	1	2	5	11	29
上下北	59	49	－	－	1	2	6	12	28

(9) 消防団の分団別消防機械配置状況

2026年（令和8年）4月1日現在

区分 / 分団別	計	消防ポンプ自動車	小型動力ポンプ	積載車			その他
				小計	普通車	軽四輪車	
計	80	9	35	34	30	4	2
本部	3	－	1	－	－	－	2
栗生	7	1	3	3	3	－	－
国府	3	1	1	1	1	－	－
広谷	5	1	2	2	1	1	－
府中	5	1	2	2	1	1	－
岩谷	3	1	1	1	1	－	－
下川辺	7	1	3	3	2	1	－
河佐	4	－	2	2	2	－	－
諸田	6	－	3	3	3	－	－
大正	5	1	2	2	2	－	－
阿宇	4	－	2	2	2	－	－
上下中央	6	2	2	2	2	－	－
上下南	10	－	5	5	4	1	－
上下北	12	－	6	6	6	－	－

（注） 本部、その他欄の２台は指揮者及び広報車

（10）消防団の分団別活動状況

2025年中(令和7年中)

区分 / 分団別	計		火災		風水害等		訓練その他	
	出動回数	出動人員	出動回数	出動人員	出動回数	出動人員	出動回数	出動人員
計	344	3,476	42	470	－	－	302	3,006
本部	33	283	10	53	－	－	23	230
栗生	25	243	3	23	－	－	22	220
国府	25	260	3	45	－	－	22	215
広谷	25	250	3	27	－	－	22	223
府中	21	204	1	4	－	－	20	200
岩谷	21	254	1	9	－	－	20	245
下川辺	21	307	1	17	－	－	20	290
河佐	23	195	2	25	－	－	21	170
諸田	23	170	2	38	－	－	21	132
大正	23	193	2	28	－	－	21	165
阿宇	23	192	2	21	－	－	21	171
上下中央	27	311	4	91	－	－	23	220
上下南	27	257	4	22	－	－	23	235
上下北	27	357	4	67	－	－	23	290

(11)　消防団の沿革

1954年（昭和29年）	3月31日	府中市制施行に伴い24分団、団員1,048人で発足
1955年（昭和30年）	11月 1日	組織の改正を図り、分団数21に統合し、団員定数を800人とする。
1956年（昭和31年）	9月30日	河佐村、諸田村及び三郎丸の一部を編入し、分団数26、総員997人となる。
1958年（昭和33年）	2月11日	日本消防協会長から表彰旗を受賞
1959年（昭和34年）	3月 7日	国家消防本部から竿頭綬を受賞
	4月 1日	消防団改編により、1団本部8分団、総員576人となる。
1960年（昭和35年）	3月 1日	国家消防本部長から最高栄誉の国家表彰旗を受賞
1963年（昭和38年）	9月18日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）に出場
1968年（昭和43年）	9月10日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）に出場し、初優勝
1970年（昭和45年）	10月15日	第2回全国消防操法大会（小型動力ポンプの部）へ広島県代表として広谷分団第4部が出場し、第2位に入賞
1972年（昭和47年）	1月 1日	消防団員591人となる。
	9月13日	広島県消防ポンプ操法競技大会（消防ポンプ自動車の部）に出場
1973年（昭和48年）	11月27日	広島県消防協会長から自治体消防25周年に当たり、優良消防団として盾及び表彰状を受けた。
1975年（昭和50年）	2月 1日	協和村との合併に伴う条例改正により、分団を10分団、総員726人となる。
1976年（昭和51年）	7月27日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）に出場
1980年（昭和55年）	7月23日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）に出場
1983年（昭和58年）	9月13日	広島県消防ポンプ操法競技大会（消防ポンプ自動車の部）に出場
1984年（昭和59年）	2月10日	第35回日本消防協会特別表彰「まとい」を受賞
1985年（昭和60年）	9月12日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）に出場
1987年（昭和62年）	2月20日	消防団緊急伝達システム5基を設置
	9月 8日	広島県消防ポンプ操法競技大会（消防ポンプ自動車の部）に出場
1989年（平成元年）	9月14日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）に出場し、第3位に入賞
1991年（平成3年）	9月12日	広島県消防ポンプ操法競技大会（消防ポンプ自動車の部）に出場し、優勝
1992年（平成4年）	10月14日	第13回全国消防操法大会（消防ポンプ自動車の部）へ広島県代表として大正分団が出場し、優良賞（第6位）を受賞
1993年（平成5年）	9月14日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）に出場
1995年（平成7年）	9月14日	広島県消防ポンプ操法競技大会（消防ポンプ自動車の部）に出場
1997年（平成9年）	9月 5日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）に出場
1998年（平成10年）	11月27日	台風10号による洪水に対しての水防の功績により建設大臣から「水防功労者」を受賞
1999年（平成11年）	9月10日	広島県消防ポンプ操法競技大会（消防ポンプ自動車の部）に出場
2001年（平成13年）	9月11日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）に出場
2002年（平成14年）	10月 1日	条例改正により、総員670人となる。
2004年（平成16年）	4月 1日	上下町との合併に伴う条例改正により、分団を13分団、総員970人となる。

2005年（平成17年）	9月13日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）に出場
2007年（平成19年）	9月11日	広島県消防ポンプ操法競技大会（消防ポンプ自動車の部）に出場し、準優勝
2008年（平成20年）	10月 1日	条例改正により、総員920人となる。
2009年（平成21年）	9月 9日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）に出場し、準優勝
2011年（平成23年）	9月10日	広島県消防ポンプ操法競技大会（消防ポンプ自動車の部）に出場
2012年（平成24年）	11月 1日	女性消防団員5人が入団する。
2013年（平成25年）	9月 7日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）に出場
2014年（平成26年）	11月25日	女性消防団に広報車が貸与される。
2015年（平成27年）	9月 5日	広島県消防ポンプ操法競技大会（消防ポンプ自動車の部）に出場
2017年（平成29年）	9月 2日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）に出場
	10月 1日	条例改正により、総員846人となる。
2018年（平成30年）	12月20日	平成30年7月豪雨の功労に対して、総務大臣から感謝状を授与される。
2019年（平成31年）	2月10日	平成30年7月豪雨の功労に対して、消防庁長官から表彰状を授与される。
2019年（令和元年）	9月 1日	平成30年7月豪雨の功労に対して、内閣総理大臣から表彰状を授与される。
2019年（令和元年）	9月 7日	広島県消防ポンプ操法競技大会（消防ポンプ自動車の部）に出場し、第3位に入賞
2023年（令和5年）	4月 1日	条例改正により、総員720人となる。
2023年（令和5年）	11月25日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）に出場
2025年（令和7年）	4月 1日	条例改正により、総員630人となる。
2025年（令和7年）	11月15日	広島県消防ポンプ操法競技大会（消防ポンプ自動車の部）に出場
2026年（令和8年）	2月26日	日本消防協会より広報車が寄贈される。

３．神石高原町消防団

2026 年（令和 8 年）4 月 1 日現在

人　口	7,522　人
世　帯	3,647　世帯
面　積	381.98　k ㎡

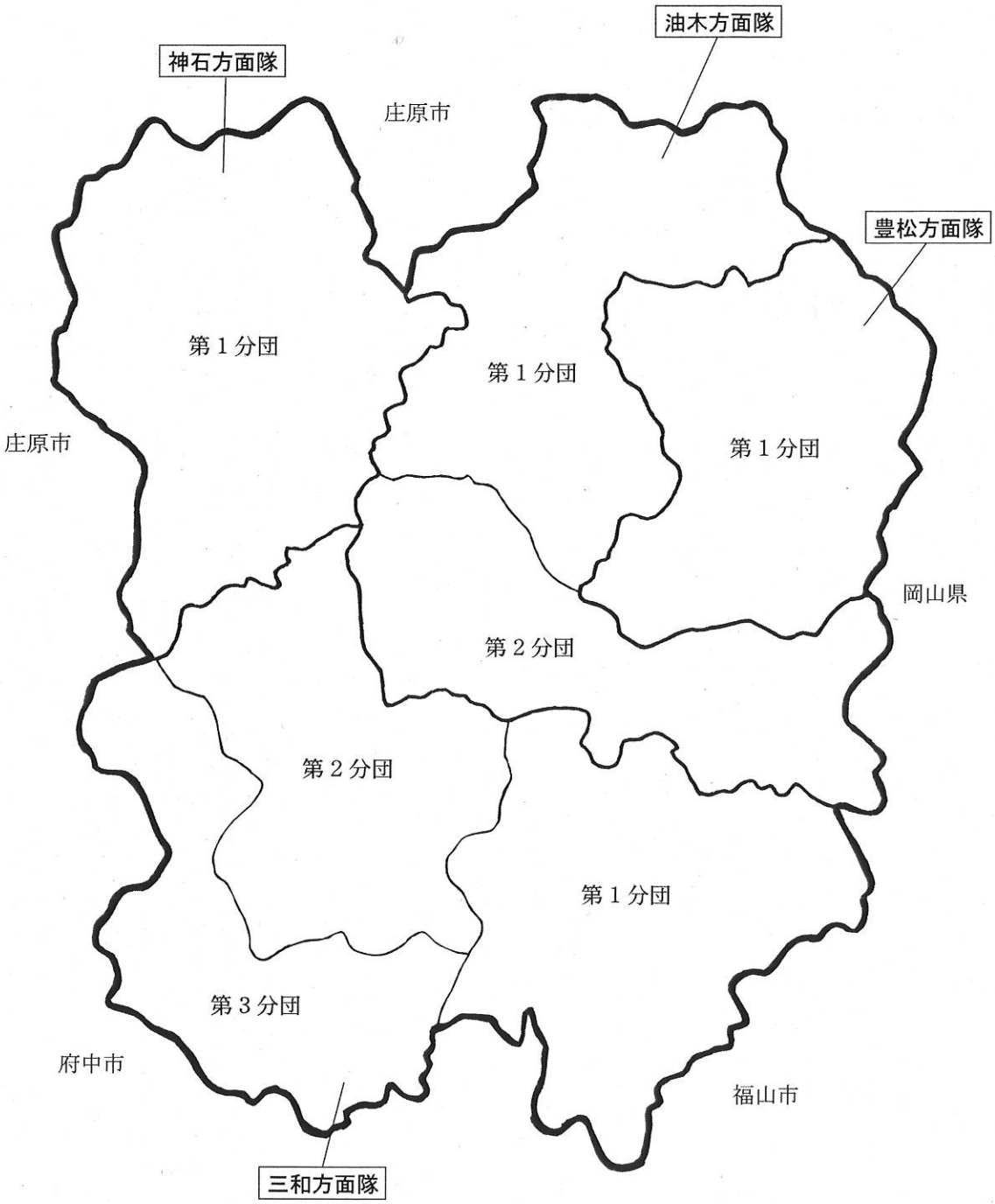


神石高原町章

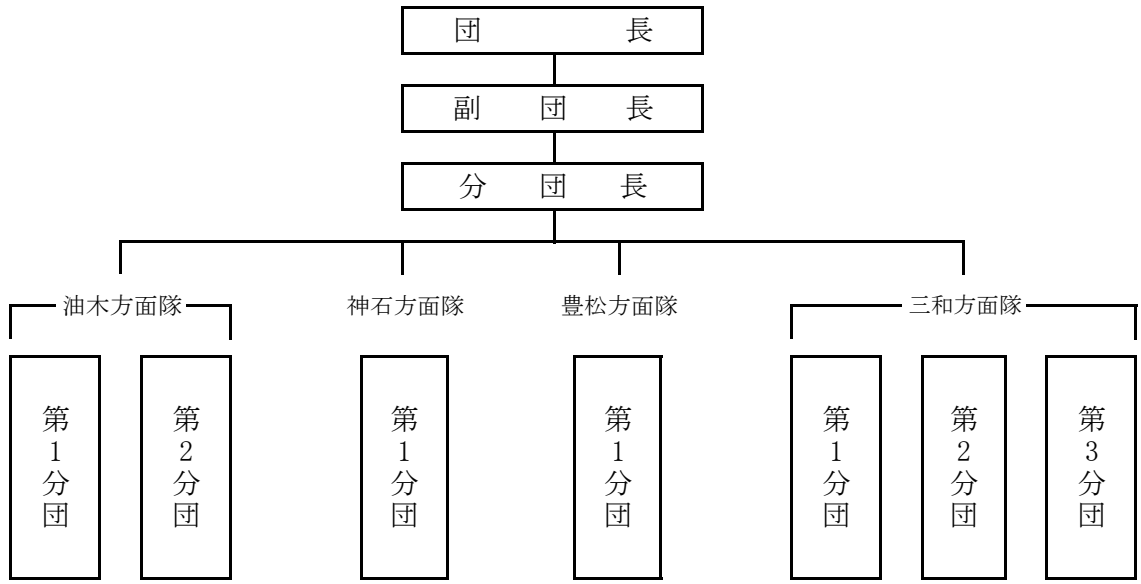
　神石高原の「じ」の形を、高原の自然の源となる「太陽」「星」「月」のパーツを配して表現しています。

　また、星（夢・未来・輝き）に向かい手を広げ掴もうとする姿を現し、対外的には神石高原町の民の社会貢献と前向きな姿勢を象徴しています。

(1) 消防団の分団配置図


油木方面隊
神石方面隊
庄原市
豊松方面隊
第１分団
第１分団
庄原市
第１分団
岡山県
第２分団
第２分団
第１分団
第３分団
府中市
福山市
三和方面隊

(2)消防団の組織図



(3)消防団の定員と報酬

2026年(令和8年)4月1日現在

区分＼階級	計	団　長	副団長	分団長	副分団長	部　長	班　長	団員(機能別団員)
定　員	585	1	4	20	28	26	98	408 (35)
職務報酬	(年額)	82,500	69,000	50,000	45,500	37,000	30,000	22,000 (10,000)
出動報酬	出動1回につき3,300円(警戒・訓練・その他の場合) 出動1回につき8,000円以内(火災・風水災・行方不明者捜索等の場合)							

(4)消防団員退職・新任状況

2025年度(令和7年度)

退職団員数	自己都合	傷病			死亡		
		計	公務	その他	計	公務	その他
3	3	－	－	－	－	－	－
	在職年数						
	5年未満	5～10	10～15	15～20	20～25	25～30	30年以上
	0	3	0	0	0	0	0

新任団員数	18歳～20歳	21歳～25歳	26歳～30歳	31歳～35歳	36歳～40歳	41歳～45歳	46歳以上
4	－	1	1	1	0	－	1

(5)消防団在職年数別団員数

2026年（令和8年）4月1日現在

階級 / 年数	計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
平均在職年数	18.3	37.0	32.3	27.3	23.1	20.7	17.2	17.4
計	551	1	4	20	28	26	97	375
5年未満	62	－	－	－	－	－	4	58
5年以上～10年未満	75	－	－	－	－	2	11	62
10年以上～15年未満	78	－	－	1	2	5	24	46
15年以上～20年未満	83	－	－	－	6	5	23	49
20年以上～25年未満	71	－	－	1	7	3	15	45
25年以上～30年未満	97	－	1	13	10	8	15	50
30年以上	85	1	3	5	3	3	5	65

(6)消防団年齢別団員数

2026年（令和8年）4月1日現在

階級 / 年数	計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
平均年齢	45.8	59.0	56.5	51.0	48.1	48.7	42.6	45.8
計	551	1	4	20	28	26	97	375
18歳以上～21歳未満	1	－	－	－	－	－	－	1
21歳以上～26歳未満	15	－	－	－	－	－	－	15
26歳以上～31歳未満	32	－	－	－	－	－	4	28
31歳以上～36歳未満	50	－	－	－	－	1	13	36
36歳以上～41歳未満	77	－	－	－	3	2	22	50
41歳以上～46歳未満	83	－	－	1	7	3	23	49
46歳以上～51歳未満	114	－	－	7	9	9	24	65
51歳以上～56歳未満	89	－	2	12	8	8	6	53
56歳以上	90	1	2	－	1	3	5	78

(7)消防団の団員表彰状況

2025年度（令和7年度）

区分 / 計	叙勲	消防庁長官	日本消防協会長	県知事	県消防協会長
86	－	－	12	12	62

(8)消防団の分団別定員と実員

2026年（令和8年）4月1日現在

区分 / 分団別	定員	実員							
		計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
計	585	551	1	4	20	28	26	97	375
本部	585	2	1	－	－	－	－	－	1
油木方面隊本部		5	－	1	3	－	1	－	－
第1分団		50	－	－	1	4	4	7	34
第2分団		73	－	－	1	4	4	8	56
神石方面隊本部		5	－	1	3	－	1	－	－
第1分団		117	－	－	1	4	4	17	91
豊松方面隊本部		5	－	1	3	－	1	－	－
第1分団		58	－	－	1	4	2	12	39
三和方面隊本部		5	－	1	4	－	－	－	－
第1分団		66	－	－	1	4	3	17	41
第2分団		90	－	－	1	4	3	18	64
第3分団		75	－	－	1	4	3	18	49

(9)消防団の分団別消防機械配置状況

2026年（令和8年）4月1日現在

区分 / 分団別	計	消防ポンプ自動車	小型動力ポンプ	積載車			その他
				小計	普通車	軽四輪車	
計	58	9	24	21	20	1	4
本部	－	－	－	－	－	－	－
油木方面隊本部	1	－	－	－	－	－	1
第1分団	12	1	7	4	3	1	－
第2分団	7	1	3	3	3	－	－
神石方面隊本部	1	－	－	－	－	－	1
第1分団	14	2	6	6	6	－	－
豊松方面隊本部	1	－	－	－	－	－	1
第1分団	6	2	2	2	2	－	－
三和方面隊本部	1	－	－	－	－	－	1
第1分団	5	1	2	2	2	－	－
第2分団	5	1	2	2	2	－	－
第3分団	5	1	2	2	2	－	－

(10)消防団の分団別活動状況

2025年中(令和7年中)

区分 / 分団別	計		火災		風水害等		訓練その他	
	出動回数	出動人員	出動回数	出動人員	出動回数	出動人員	出動回数	出動人員
計	187	3,363	87	1,183	－	－	100	2,180
本　部	20	20	13	13	－	－	7	7
油木方面隊本部	28	46	7	19	－	－	21	27
第1分団	26	250	4	39	－	－	22	211
第2分団	28	424	6	112	－	－	22	312
神石方面隊本部	31	68	7	25	－	－	24	43
第1分団	30	592	6	182	－	－	24	410
豊松方面隊本部	29	65	6	23	－	－	23	42
第1分団	29	397	6	177	－	－	23	220
三和方面隊本部	34	89	9	35	－	－	25	54
第1分団	33	384	8	119	－	－	25	265
第2分団	34	640	9	320	－	－	25	320
第3分団	31	388	6	119	－	－	25	269

(11) 消防団の沿革

1947年（昭和22年）	8月	油木町消防団発足する。定員350人
		豊松村消防団発足する。定員400人
1954年（昭和29年）	11月	神石町消防団発足する。定員500人
1955年（昭和30年）	3月	三和町消防団発足する。定員900人
1969年（昭和44年）	4月	三和町消防団機構改革により3分団制となる。定員300人
2000年（平成12年）	9月	油木町消防団員の定数を230人とする。
2001年（平成13年）	6月	豊松村消防団員の定数を150人とする。
2004年（平成16年）	1月	神石町消防団機構改革により2分団制となる。定員200人
	11月	神石郡四町村合併により神石高原町消防団となる。定員800人
		旧消防団の管轄区域を方面隊とし、油木方面隊・神石方面隊・豊松方面隊・三和方面隊の4方面隊体制となる。
2005年（平成17年）	9月	平成17年度広島県消防ポンプ操法競技大会出場　優良賞（第4位）
2007年（平成19年）	9月	平成19年度広島県消防ポンプ操法競技大会出場　優良賞（第6位）
2008年（平成20年）	3月	神石高原町消防団員の定数を760人とする。
2011年（平成23年）	9月	平成23年度広島県消防ポンプ操法競技大会出場　優良賞（第7位）
2013年（平成25年）	1月	神石高原町消防団機構改革により、神石方面隊・豊松方面隊を1分団制とする。
	4月	神石高原町消防団員の定数を700人とする。
2015年（平成27年）	9月	平成27年度広島県消防ポンプ操法競技大会出場　優良賞（第４位）
2018年（平成30年）	1月	神石高原町消防団員機構改革により、機能別団員制度を導入し、定数を715人とする。
	12月	平成30年7月豪雨の功労に対して、総務大臣から感謝状を授与される。
2019年（平成31年）	2月	平成30年7月豪雨の功労に対して、消防庁長官から表彰状を授与される。
2023年（令和5年）	4月	神石高原町消防団員の定数を645人とする。
2025年（令和7年）	4月	神石高原町消防団員の定数を585人とする。
2025年（令和7年）	11月	令和7年度広島県消防ポンプ操法競技大会出場　優良賞（第３位）

4. 構成市町消防団集計

2026年(令和8年)4月1日現在

区分 / 構成団体別	分団数	定員	実員 計	団長	副団長	分団長・級	分団長	副分団長	部長	班長	団員	平均年齢
計	80	4,079	3,663 (80)	3	16	108 (1)		174 (2)	239 (4)	363 (4)	2,760 (69)	46.3
福山市	60	2,864	2,545 (65)	1	8	68 (1)		120 (2)	168 (3)	168 (3)	2,012 (56)	44.9
府中市	13	630	567 (15)	1	4	20		26	45 (1)	98 (1)	373 (13)	48.2
神石高原町	7	585	551	1	4	20		28	26	97	375	45.8

※ ( )内は女性消防団員で内数

2026年(令和8年)4月1日現在

区分 / 構成団体別	計	消防ポンプ自動車	小型動力ポンプ	積載車 小計	普通車	軽四輪車	その他
計	416	76	169	163	147	16	8
福山市	278	58	110	108	97	11	2
府中市	80	9	35	34	30	4	2
神石高原町	58	9	24	21	20	1	4